弘前大学教育学部研究紀要クロスロード　第26号（2022年３月）：137―146
CROSSROADS. Fac. of Educ., Hirosaki Univ., 26（March 2022）. 137―146

特別支援学校（肢体不自由）の知的障害教科代替の教育課程に在籍する児童の「学習指導要領評価表」を活用した指導目標の設定と評価及び授業づくりに関する検討
―指導計画作成と生活単元学習の授業実践を通して―

Based on the Setting and Evaluation of Teaching Goals Using the "Course of Study Evaluation Table" for Children Enrolled in the Curriculum of the Special Needs School for Physically Handicapped Children Alternative to the Subject of Intellectual Disability, and the Purpose of the Course of Study of the Special School Examination of Lesson Making: Through Teaching Plan Making and Lesson Practice of Life Unit Learning

石　岡　徳　人*・本　多　秀　則*・飯　野　茂　八*・天　海　丈　久**
Norihito ISHIOKA，Hidenori HONDA，Shigeya IINO，Takehisa AMAGAI

要旨

本研究は，小学部知的障害教科代替の教育課程で学習する児童１名を対象に，事例対象児が在籍する特別支援学校（肢体不自由）の校内研究で整備された「学習指導要領評価表」が，指導目標の設定と評価に有効であるか，また，2017・2018年改訂の特別支援学校学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに活用できるかを検討した。その結果，指導目標の設定は，目標設定や指導計画の反映が行いやすく，有効であることが確認されたが，３観点による学習状況の評価方法は今後も検討が必要であると考えられた。また，「学習指導要領評価表」を活用した授業づくりについては，生活単元学習の学習指導略案に「学習指導要領評価表」から単元に関連する各教科等の指導内容を表記することで，各教科等の指導内容を踏まえた授業を組み立てることにつながり，学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの第一歩となったと考えられる。一方で，授業における３観点による学習状況の評価方法や単元の総括的な評価方法，各教科等の時数の取り扱い方法については，今後も引き続き検討が必要であると考えられた。

キーワード：特別支援学校（肢体不自由），学習指導要領，評価表，知的障害教科代替，生活単元学習

Ⅰ　はじめに

事例対象児が在籍する特別支援学校（肢体不自由）では，これまで2009年改訂特別支援学校学習指導要領（以下，「旧学習指導要領」とする。）を基に作成した評価表（以下，「旧評価表」とする。）を活用し，知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科（以下，「各教科（知的障害）」とする。）代替の各教科等や自立活動の指導目標を設定し，個別の指導計画に表記するとともに，教科別の指導や各教科等を合わせた指導，自立活動において，各単元に関連する教科等の目標を年間指導計画に表記してきた。

旧評価表は，旧学習指導要領の小学部から高等部までの各教科等の指導内容が６段階でまとめられており，年度当初に各教科等の目標を選定し，年度末に評価するようになっていた。個別の指導計画や年間指導計画には，選定した指導内容を示すコード（例えば，生活科「基本的生活習慣」の１段階の内容を「生基１」と表記する。）を表記するようにし，12年間継続して活用できるようになっていたので，児童生徒の変容や成長を確認できるようにもなっていた。しかし，2017・2018年の学習指導要領改訂に伴い，評価表も新学習指

*　青森県立弘前第二養護学校　Aomori Prefectural School for Special Needs Education, Hirosaki Second
**　弘前大学教育学部　Faculty of Education, Hirosaki University

導要領の趣旨を踏まえ，再整備しなければならなくなった。そこで，201X年度の校内研究で新学習指導要領に対応した評価表の検討・整備と活用を取り上げ，研究を進めた。

新学習指導要領に対応した学習指導要領評価表（以下,「新評価表」とする。）は，2019年度～2021年度科学研究費助成事業（基盤研究(C) JP19K02902，研究代表者 天海丈久）の助成を受け，研究協力者である15名の特別支援学校教員により作成された，各教科（知的障害）等の目標の検討を容易にし，学習の積み重ねが可視化できる個別の指導計画作成のためのツールである。新評価表は，各教科（知的障害），特別の教科 道徳，外国語活動，総合的な学習（探究）の時間，特別活動，自立活動について，小・中学部，高等部の12年間の学習の積み重ねが可視化できるよう，また連続性の観点から，各教科等ごとに小学部（１・２・３段階），中学部（４・５段階とした），高等部（６・７段階とした）の目標及び内容が電子化されてまとめられている。また2020年に文部科学省から公表された，学習指導要領コードも転記されている。新評価表のシートは,「内容」等欄，学習指導要領の項目が転記されている「項目」欄，個別の指導計画に記載しやすいように内容等や項目が略記されている「年計記載」欄,「学習指導要領コード」欄，指導事項が記載されている「事項」欄，対象児童生徒がその該当事項を選択する場合に丸を付ける「選択」欄,「評価」欄（観点別),「総合評価欄」で構成され，評価は案として，達成の場合は○印を，未達成の場合は△印を記入するようにし，総合評価は各学校で工夫して記入することとされた。

本研究では，各教科等の目標及び内容を，各教科（知的障害）等の目標及び内容の一部又は全部に替える教育課程（以下,「知的障害教科代替の教育課程」とする。）で学習するＢ児を対象に，新評価表を基に事例対象児が在籍する特別支援学校でさらに再編成を行った新評価表が,指導目標の設定と評価に有効であるか，また，新評価表を新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに活用することができるかを検討する。

Ⅱ　対象児童の目標設定

１　対象児童（Ｂ児　小学部第６学年）について

（１）障害の状況

脳性まひ　右半身不全まひ　重度知的障害

（２）実態

- 自分で歩行できるが，右片まひがあるためふらつくことが多い。
- 右上肢は小さく軽い物をつかんで放すことができるようになってきた。
- 周囲の様子や音に気をとられやすいところがある。
- やりたいことや欲しい物を指差しや簡単な単語，二語文で伝えることができるが，理解言語に比べ表出言語が少なく，質問に対して言葉で答えることができないことが多い。
- 好きなものに集中したり興奮したりすると，気持ちのコントロールが難しくなり，自分で疲れを感じることができなくなるので，教員等が活動を調整することもある。

２　学習指導要領評価表による目標設定

本研究で用いる新評価表は，事例対象児が在籍する特別支援学校の校内研究で検討し，新評価表をさらに修正・再編成し，完成させたものである。その特徴は以下の通りである。

（１）新評価表は，本校で履修する各教科のファイルをまとめたフォルダとした。

（２）各教科のファイルには，履修する学年分のシートを作成した。

- 小１～高３…生活，国語，算数・数学，音楽，図工・美術，体育・保健体育，特別の教科 道徳，特別活動，自立活動（自立活動は長崎自立活動研究会自立活動学習内容要素表より作成）
- 中１～高３…理科，社会，外国語活動・外国語，職業・家庭
- 高１～高３…情報

（３）総合的な学習（探究）の時間は，教科全般に関わり，新評価表での評価は難しいと考え，新評価表には入れなかった。

（４）指導内容等の「選択」「評価」はリストを作り，クリックで入力できるようにした。

（５）小学部の生活と中学部・高等部の数学，理科，社会，保健体育，職業・家庭との関連を注釈で示し，中学部や高等部で選択が難しい場合に，小学部の生活の指導内容も参考にできるようにした。

こうして201X年９月に完成した新評価表で，Ｂ児の指導目標を設定した。表１は生活科の新評価表の一部である。Ｂ児の実態を踏まえ，今年度の重点的な指導内容を目標として選定した。生活科も含め，各教科のほとんどが１段階から２段階の指導内容が選定された。教科によっては３段階の指導内容も選定された。特別の教科 道徳は，小学校第１・第２学年の指導内容の全てを選定した。

表１　Ｂ児の新評価表（生活科）抜粋

※「●」が選定した指導内容

201X　年度　　小学部　６年　　氏名　B

○：達成　△：未達成　●：その年度に選択しているもの

生活

【目標】
具体的な活動や体験を通して，生活に関わる見方・考え方を生かし，自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)		活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴やよさ，それらの関わり等に気付くとともに，生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
1段階	ア	活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴に関心をもつとともに，身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。
2段階	ア	活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに，身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
3段階	ア	活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴やよさ，それらの関わりに気付くとともに，生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
(2)		自分自身や身の回りの生活のことや，身近な人々，社会及び自然と自分との関わりについて理解し，考えたことを表現することができるようにする。
1段階	イ	自分自身や身の回りの生活のことや，身近な人々，社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち，感じたことを伝えようとする。
2段階	イ	自分自身や身の回りの生活のことや，身近な人々，社会及び自然と自分との関わりについて気付き，感じたことを表現しようとする。
3段階	イ	自分自身や身の回りの生活のことや，身近な人々，社会及び自然と自分との関わりについて理解し，考えたことを表現することができるようにする。
(3)		自分のことに取り組んだり，身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり，生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。
1段階	ウ	自分のことに取り組もうとしたり，身近な人々，社会及び自然に関心をもち，意欲をもって学んだり，生活に生かそうとしたりする態度を養う。
2段階	ウ	自分のことに取り組もうとしたり，身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけようとしたり，意欲や自信をもって学んだり，生活に生かそうとしたりする態度を養う。
3段階	ウ	自分のことに取り組んだり，身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり，生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

教科	内容	項目	年計記載	事　　項	選択	評価 知・技	評価 思・判・表	評価 態度	評価 総合評価
生活	生活習慣	1-(ア)	生基1(ア)	簡単な身辺処理に気付き，教師と一緒に行おうとすること。	●				
		2-(ア)	生基2(ア)	必要な身辺処理が分かり，身近な生活に役立てようとすること。					
		3-(ア)	生基3(ア)	必要な身辺処理や集団での基本的生活習慣が分かり，日常生活に役立てようとすること。					
		1-(イ)	生基1(イ)	簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。					
		2-(イ)	生基2(イ)	身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。					
		3-(イ)	生基3(イ)	日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，保健体育科（H 保健），高等部については，保健体育科（I 保健）を参照。							
	安全	1-(ア)	生安1(ア)	身の回りの安全に気付き，教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。	●				
		2-(ア)	生安2(ア)	身近な生活の安全に関心をもち，教師の援助を求めながら，安全な生活に取り組もうとすること。					
		3-(ア)	生安3(ア)	日常生活の安全や防災に関心をもち，安全な生活をするよう心がけること。					
		1-(イ)	生安1(イ)	安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。					
		2-(イ)	生安2(イ)	安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。					
		3-(イ)	生安3(イ)	安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，保健体育科（H 保健），高等部については，保健体育科（I 保健）を参照。							
	日課・予定	1-(ア)	生日1(ア)	身の回りの簡単な日課に気付き，教師と一緒に日課に沿って行動しようとすること。					
		2-(ア)	生日2(ア)	身近な日課・予定が分かり，教師の援助を求めながら，日課に沿って行動しようとすること。					
		3-(ア)	生日3(ア)	日常生活の日課・予定が分かり，おおよその予定を考えながら，見通しをもって行動しようとすること。					
		1-(イ)	生日1(イ)	簡単な日課について，関心をもつこと。					
		2-(イ)	生日2(イ)	身近な日課・予定について知ること。					
		3-(イ)	生日3(イ)	日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，数学科（C 測定），高等部については，数学科（C 変化と関係）を参照。							
	遊び	1-(ア)	生遊1(ア)	身の回りの遊びに気付き，教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。					
		2-(ア)	生遊2(ア)	身近な遊びの中で，教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり，遊びを工夫しようとしたりすること。					
		3-(ア)	生遊3(ア)	日常生活の遊びで，友達と関わりをもち，きまりを守ったり，遊びを工夫し発展させたりして，仲良く遊ぼうとすること。	●				
		1-(イ)	生遊1(イ)	身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。					
		2-(イ)	生遊2(イ)	簡単なきまりのある遊びについて知ること。					
		3-(イ)	生遊3(イ)	きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，職業・家庭科の家庭分野（A 家族・家庭生活），高等部については，家庭科（A 家族・家庭生活）を参照。							
	人との関わり	1-(ア)	生人1(ア)	教師や身の回りの人に気付き，教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとすること。					
		2-(ア)	生人2(ア)	身近な人を知り，教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとすること。	●				
		3-(ア)	生人3(ア)	身近な人と自分との関わりが分かり，一人で簡単な応対などをしようとすること。					
		1-(イ)	生人1(イ)	身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。					
		2-(イ)	生人2(イ)	身近な人との接し方などについて知ること。					
		3-(イ)	生人3(イ)	身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，職業・家庭科の家庭分野（A 家族・家庭生活），高等部については，家庭科（A 家族・家庭生活）を参照。							
	役割	1-(ア)	生役1(ア)	身の回りの集団に気付き，教師と一緒に参加しようとすること。					
		2-(ア)	生役2(ア)	身近な集団活動に参加し，簡単な係活動をしようとすること。	●				
		3-(ア)	生役3(ア)	様々な集団活動に進んで参加し，簡単な役割を果たそうとすること。					
		1-(イ)	生役1(イ)	集団の中での役割に関心をもつこと。					
		2-(イ)	生役2(イ)	簡単な係活動などの役割について知ること。					
		3-(イ)	生役3(イ)	集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，職業・家庭科の職業分野（A 職業生活），家庭分野（A 家族・家庭生活），高等部については，職業科（A 職業生活），家庭科（A 家族・家庭生活）を参照。							
	手伝い・仕事	1-(ア)	生手1(ア)	身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとすること。	●				
		2-(ア)	生手2(ア)	教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとすること。					
		3-(ア)	生手3(ア)	日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとすること。					
		1-(イ)	生手1(イ)	簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。					

Ⅲ　個別の指導計画の作成

Ｂ児の実態や発達検査の結果を踏まえ，長期目標は小学部第４学年時のものを継続し，今年度の目標を設定した。各教科等の指導目標は新評価表で重点的に選定した指導内容を「今年度の指導目標」欄に表記し，新評価表の「年計記載」欄の略記により表記した。さらに，指導を行う上での手立てや配慮事項も表記した。表２は，Ｂ児の個別の指導計画を抜粋したものである。

表２　Ｂ児の個別の指導計画（抜粋）

個別の指導計画

作成年月日	201X年5月22日	作成者名	

年　組	氏名	Ｂ	性別		生年月日	
長期目標（３年）	・いろいろな物を右手で握って動かしたり、両手で持つ時に右手を添えたりするなど、学習場面や日常生活場面で右手を使用する機会を増やす。 ・言葉や身振りなどを用いて要求することができるようになる。 ・いろいろな物を形や色などで分ける力を身に付ける。					
今年度の目標	①右手でいろいろな形や重さの物を持ったりつまんだりする活動を多く経験し、右手の機能を維持する。 ②言葉を話して要求を伝えたり、要求を示すジェスチャーなどを覚えて表現したりする。 ③絵カードや色カード、記号カード等を同じ絵や色ごとに分けたり、形の大小を分けたりする。					

領域・教科等	今年度の指導目標	手立て・配慮事項	予定時数
生　活	・簡単な身辺処理に気付き，教師と一緒に行おうとすること。【生基1(ｱ)】 ・身の回りの安全に気付き，教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。【生安1(ｱ)】 ・日常生活の遊びで，友達と関わりをもち，きまりを守ったり，遊びを工夫し発展させたりして，仲良く遊ぼうとすること。【生遊3(ｱ)】 ・身近な人を知り，教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとすること。【生人2(ｱ)】 ・身近な集団活動に参加し，簡単な係活動をしようとすること。【生役2(ｱ)】 ・身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとすること。【生手1(ｱ)】 ・身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとすること。【生き1(ｱ)】 ・身の回りの生命や自然について関心をもつこと。【生生1(ｲ)】	・箸やスプーンで自食できるので、食事時間を20分程度に短縮できるように励ましながら支援する。 ・定時にトイレへ行き、排尿を促す。 ・体温調節が難しいので、少量ずつでも定時に水分をとるように促す。 ・写真や絵カードを使用して、活動への見通しがもてるようにしたり、やるべきことを意識づけたりする。 ・周囲の様子に気をとられやすいので、ついたてを使用したり教材の配置を工夫したりする。 ・大人と関わることはできるが、自分から友達と関わることは難しいので、友達と一緒にゲームをしたり、物を受け渡したりとやりとりする機会を多く設定する。	
国　語	・教師の話や読み聞かせに応じ，音声を模倣したり，表情や身振り，簡単な話し言葉などで表現したりすること。【国聞話1ｱ】 ・伝えたいことを思い浮かべ，身振りや音声などで表すこと。【国聞話1ｳ】 ・文字に興味をもち，書こうとすること。【国書1ｲ】 ・絵本などを見て，知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。【国読1ｲ】	・興味関心のある絵本や写真カード等を用意する。 ・たくさん発声や発語ができるように、リラックスして楽しく学習できる雰囲気を作る。 ・いろいろな筆記用具を用意して、自分で使いやすいものを見つける。	70ｈ
算　数	・目の前で隠されたものを探したり身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。【算基1ｱ(ｱ)㋑】 ・目の前のものを，１個，２個，たくさんで表すこと。【算計1ｱ(ｱ)㋑】	・具体物や視覚教材を使って繰り返し指導することで、数量や図形に関する概念を養う。 ・興味・関心がある物を題材にしたり、具体物を操作する場面を多く設定し、同じ物を集めたり、色や形ごとに分けたりする学習を繰り返し行う。	70ｈ

また，自立活動の個別の指導計画は，区分毎の実態から導き出された指導目標を設定した。そして，指導目標を達成するために必要な項目を選定した上で，新評価表から指導内容を抜き出し「年計記載」欄の略記により「自立活動の学習の要素」欄に表記した（図）。

個別指導計画（自立活動）

作成年月日	201X年　5月　22日	作成者名	

6年	氏名	B	性別		生年月日	

	健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
実態把握	・身体に熱がこもりやすく、体温調節が難しい。 ・心臓に人工血管が入っておりワーファリンを服用しているため、食事に制限がある。 ・出血すると止血しにくいため、転倒等による内出血や出血に注意が必要であるが、本人に危険を感じ避けようとする意識はほとんどない。	・集中しているときは自分で疲れを感じてコントロールすることができず、疲れ切ってしまう。 ・かぶりものや水遊び等経験のないものに強い拒否を示す。	・人懐こく大人と関わって遊びたがる。 ・集団の中で目を見ながら話を聞くことができる。	・ボウリングゲーム等好きな事は手元を良く見て集中して遊ぶことができる。 ・教師の支援を受けながら関節を動かすなどの体操を受け入れることができる。 ・写真を見て身近な物を判断することができる。（パパ、ママ・身近な教師）	・右片麻痺があるため、左優位の動作が多い。 ・独歩で移動できる距離が伸びたが、不安定である。 ・机上で作業する姿勢をとることができる。 ・立って排尿することができる。 ・右手でつまむ動作は難しいが、軽い物を指全体でつかむことができる。	・喜怒哀楽を表情で表すことができる。 ・身近な教師や好きな物の写真カードを見て認識して、指差しで要求を示すことができる。 ・いくつかの発語や教師の模倣をした発声はあるが、機能的に思ったように声が出ない事が多い。 ・文字の認識は難しい。

幾つかの指導目標の中で優先する目標として

今年度の指導目標	・右手の親指と人差し指で、いろいろな大きさや重さの物をつまみ、別の容器に入れる。 ・挨拶や要求の場面で、身振りや言葉で自分の思いを表現する。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目	身体各部の状態の理解と養護に関すること	状況の理解と変化への対応に関すること	他者とのかかわりの基礎に関すること 自己の理解と行動の調整に関すること	感覚や認知の特性についての理解と状況に関すること 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	コミュニケーションの基礎的能力に関すること 言語の受容と表出に関すること

学習指導要領評価表の「自立活動」から「内容」と「年計記載」を取り出す。

	健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
自立活動の学習の要素	・身体各部の状態の理解 【健(3)－①】	・状況の変化への対処 【心(2)－②】	・注意の共有 【人(1)－②】 ・行動の調整 【人(3)－②】	・注意の集中 【環(2)－③】 ・目と手の協応動作 【環(4)－②】	・上肢・手指の動き 【身(1)－⑪】 ・机上での作業姿勢 【身(5)－①】 ・上肢・手指を使った諸動作 【身(5)－②】	・要求 【コ(1)－②】 ・身振りやサインの理解 【コ(1)－③】 ・言葉の表出 【コ(2)－①】

選定された項目を関連づけ
具体的な指導内容を設定

	①	②
具体的な指導内容	○右手を使った活動 ・リングの棒挿し　・ミニボール掴み　・コーン重ね ・大型洗濯バサミ掴み　・輪投げ　・牛乳パックちぎり ○体操 ・お尻上げ　・四つ這い ・バランスパッドに立っての輪の棒挿し	○挨拶、要求 ・教師の動作の模倣 ・挨拶や要求を伝える身振り ・身近にある物の名前や人の名前を話す ・「ちょうだい」や「おねがい」などは言葉を交えて要求を伝える

時数	前半	予定時数　８５時間 実施時数　　時間	後半	予定時数　８５時間 実施時数　　時間	合計	予定時数　１７０時間 実施時数　　時間

図　B児の個別の指導計画（自立活動）

Ⅳ　年間指導計画の作成

各教科の年間指導計画には，単元ごとに関連する指導目標を新評価表から選定し「年計記載」欄の略記により表記した。日常生活の指導や生活単元学習などの各教科等を合わせた指導についても，単元ごとに関連する各教科の指導目標を新評価表から選定し，「年計記載」の略記により表記した。表３は，Ｂ児の生活単元学習の年間指導計画から，研究授業の対象となった単元を抜粋したものである。

表３　Ｂ児の生活単元学習の年間指導計画（研究授業の対象部分）

期間	単元名・指導内容	指導目標	実施時数
12月	「クリスマス会をしよう」 • 期日 • 準備（プログラム作り） • 役割分担 • 飾りつけ • ミニクリスマス会をしよう • クリスマス会当日	【生安１(ｱ)】（思考・判断・表現） 【生人２(ｱ)】（思考・判断・表現） 【生遊３(ｱ)】（思考・判断・表現） 【生役２(ｱ)】（思考・判断・表現） 【生き１(ｱ)】（思考・判断・表現） 【国聞話１ｱ】（思考・判断・表現） 【国聞話１ｳ】（思考・判断・表現） 【算図１ｱ(ｱ)㋑】（知識・技能） 【音器３(ｳ)㋑】（知識・技能） 【道Ａ希12(5)】 【道Ｂ友12(9)】 【道Ｃ国12(16)】	3ｈ

Ⅴ　研究授業の実際

校内研究では，新評価表を指導計画の作成に活用することに加えて，新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりにも活用できるのではないかと考え，研究授業を行った。

研究授業は，クリスマスを題材とする生活単元学習を取り上げた。Ｂ児が自分から言葉や発声，身振りなどで，自分の考えたことを表現してほしいという指導者の願いを踏まえ，授業を設定した。表４は，研究授業の学習指導略案である。学習指導略案には「単元における児童の目標」に「関連する教科等」の欄を設け，単元に関わる教科等の指導目標を新評価表で確認し，表記するようにした。

授業では，Ｂ児が絵本の読み聞かせで，自分で絵本のページをめくったり，教師の質問には言葉の表出が無かったものの指さしや発声などで正しく答えたりして，積極的に授業に取り組む様子が見られた。

表４　研究授業の「生活単元学習」学習指導略案

生活単元学習　指導略案

日時	２０１Ｘ年１１月２７日（金曜日）　４校時	
場所	小学部５組　教室	
対象児童	小学部　６年（知的障害教科代替の教育課程）　　氏名　Ｂ	
指導者		
教科・単元名	生活単元学習「クリスマス会をしよう」	
児童の実態	【障害について】 脳性まひ、右半身不全まひ、重度知的障害 【教科等の実態】 やりたいことや欲しい物を指差しや簡単な単語、二語文で伝えることができるが、理解言語に比べ表出言語が少なく、質問に対して言葉で答えることができないことが多い。	
単元設定の理由	色々な人や物事に興味・関心があり、意欲的に関わったり取り組んだりすることができる児童である。しかし、理解に比べて言語での表出が難しく、気持ちがうまく伝わらないことが多く、身体のまひもあって生活経験不足な面が見られる。そこで、生活に身近であり、学習発表会の劇で主役を演じたクリスマスを題材に取り上げることで、意欲的に季節に関する活動の体験を増やすことができると考え。本単元を設定した。	
単元における児童の目標	クリスマスに関する様々な活動を通して、季節の行事への理解を深めることができる。	
関連する教科等	・生活：身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。 【生安１(ｱ)】 日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。【生遊３(ｱ)】 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとすること。 【生役２(ｱ)】 身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとすること。【生き１(ｱ)】 ・国語：教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。【国聞話１ｱ】 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。【国聞話１ｳ】 ・算数：形を観点に区別すること。【算図１ｱ(ｱ)㋑】 ・音楽：身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能【音器３(ｳ)㋑】 ・道徳：自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。【道Ａ希 12(5)】 友達と仲よくし、助け合うこと。【道Ｂ友 12(9)】 他国の人々や文化に親しむこと。【道Ｃ国 12(16)】	
指導の計画	＜全３時間＞ ①クリスマスって何するの　　（１時間） ②ミニクリスマス会をしよう　　（１時間）・・・本時２／３ ③クリスマス会をしよう　　（１時間）	
本時のねらい	①クリスマスの話を聞いて、登場人物やクリスマスに関する質問に、発声で答えることができる。【国聞話１ｱ】【国聞話１ｳ】 ②自分が好きなクリスマス飾りを選んで、ツリーに飾り付けることができる。【生遊３(ｱ)】	
指導の展開	活動内容	指導の手だて
①導入	挨拶 本時の学習内容の確認	・活動の流れに見通しをもつことができるよう、学習の順番を写真カードで提示する。
②展開	・学校祭の劇「サンタさんのてがみ」を振り返る。 ・クリスマスの話「サンタさんのてがみ」を聞き質問に答える ・クリスマスツリーの飾り付けをする ・クリスマスの曲「ジングルベル」の器楽演奏をする	・写真を入れたプレゼンテーションで活動を想起できるようにする。 ・見聞きしやすい絵本の提示の仕方と、読む音量や速度に配慮する。 ・実際の家庭用クリスマスツリーに自分で選んだ飾りを取り付ける。 ・鈴をタイミングよく鳴らすことができるよう、合図を出す。
③整理	次時の学習について確認	・次時は学部でのクリスマス会であることを伝え、期待感をもつことができるようにする。
評価	・教師からの問いかけに対し、発声や身振りで答えることができたか。【国聞話１ｱ】【国聞話１ｳ】 ・飾りを選ぶことが分かり、自分からツリーに飾ることができたか。【生遊３(ｱ)】 ・教師の支援や働きかけは適切だったか。	

Ⅵ　研究授業の評価

研究授業後の研究協議では，授業の評価と新評価表の活用を主な協議内容とした。

授業の評価については，次のような意見が出された。授業改善につながる意見は，研究授業以降の授業に生かすようにした。

- 教師の話し方や教材の提示の仕方などの働き掛けがよかった。
- クリスマスツリーの飾り付けで，オーナメントを自分で選択することができ楽しそうだった。
- 絵本の読み聞かせで，絵本に注目するように，絵本のページめくりや絵本に付いている手紙を受け取るなどの自分で操作する活動が取り入れられてよかった。
- 座ったまま見聞きする時間が長かったので，登場するキャラクターに扮して活動するような体験的な学習の場面を取り入れると意欲がより高まるだろう。
- クリスマスツリーにオーナメントを飾る手指の動きについては，自立活動と関連させてもよい。

以上のことから，研究授業におけるＢ児のねらいは，授業の様子も踏まえ，達成されたと評価した。

また，新評価表については，次のような意見が出された。

- 新評価表の使い方は，旧評価表と大きな変わりがないため，記載内容は増えたものの，比較的分かりやすく使うことができた。
- 指導案に「関連する教科等の欄」を設けて，新評価表の内容を盛り込んだことで，新評価表を意識した授業構成を組み立てることにつながり，生活単元学習が教科が基になっていることの意識が高まった。

新評価表についても，肯定的な意見が出された。

Ⅶ　結果と考察

1　新評価表による指導目標の設定と評価について

事例対象児が在籍する特別支援学校では，校内研究を通して，様式や入力の仕方などを工夫して新評価表を再編成し，対象校独自の新評価表を整備した。指導事例を通して指導目標の設定と評価を行った結果，研究協議の意見からも分かるように，新評価表による目標設定は十分に活用できるものであることが示唆された。その理由としては，対象校で整備した新評価表が，それまで使用してきた旧評価表とほぼ同様の使い方で目標を設定し，個別の指導計画や年間指導計画に反映させることができたため，教員が受け入れやすかったためと考えられる。

Ｂ児の新評価表は，年度末に学級担任全員で確認しながら評価を行った。新評価表の「評価」の欄には，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点による評価と総合評価の欄があり，「主体的に学習に取り組む態度」は新評価表では「態度」とし，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」のどの項目でも併せて評価する必要があると考えて評価した。達成は「○」，未達成は「△」を入力した。総合評価は，指導内容に関連する観点が全て達成と判断された場合に達成と評価し，未達成の観点がある場合は，未達成とした。

Ｂ児は，日頃から積極的に学習活動に取り組む様子が見られたことから，各教科等の指導内容の「態度」は達成と評価したものがあるが，Ｂ児の発達の段階，右半身不全まひ，表出言語の少なさなどから，生活科，体育科などの身体の動きを伴うような指導内容，国語科，算数科などの言葉のやりとりを伴うような指導内容，音楽科，図画工作科などの自分で工夫して表現するような指導内容の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」については，達成することが難しかった。また，自立活動については個別の指導計画に示した指導内容は達成と判断したものもあるが，新評価表にある内容を達成したとまでは判断できなかったため，未達成となった。

その結果，総合評価は，生活科の「身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとすること」については，Ｂ児が積極的に学級の係活動に教師と一緒に取り組むことができたことから達成と判断したが，その他の生活科，国語科，算数科，音楽科，図画工作科，体育科，特別活動，自立活動は未達成とした。特別の教科 道徳は，文章による評価を行うため，新評価表での評価は行わなかった。表５は，例として，生活科の新評価表を抜粋したものである。

表５　Ｂ児の新評価表（生活科の評価）抜粋

※●が選定した指導内容　　○が達成　　△が未達成

201X　年度　　小学部　６年　　氏名　B

○：達成　△：未達成　●：その年度に選択しているもの

生活

【目標】
具体的な活動や体験を通して，生活に関わる見方・考え方を生かし，自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)		活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴やよさ，それらの関わり等に気付くとともに，生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
1段階	ア	活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴に関心をもつとともに，身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。
2段階	ア	活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに，身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
3段階	ア	活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴やよさ，それらの関わりに気付くとともに，生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
(2)		自分自身や身の回りの生活のことや，身近な人々，社会及び自然と自分との関わりについて理解し，考えたことを表現することができるようにする。
1段階	イ	自分自身や身の回りの生活のことや，身近な人々，社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち，感じたことを伝えようとする。
2段階	イ	自分自身や身の回りの生活のことや，身近な人々，社会及び自然と自分との関わりについて気付き，感じたことを表現しようとする。
3段階	イ	自分自身や身の回りの生活のことや，身近な人々，社会及び自然と自分との関わりについて理解し，考えたことを表現することができるようにする。
(3)		自分のことに取り組んだり，身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり，生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。
1段階	ウ	自分のことに取り組もうとしたり，身近な人々，社会及び自然に関心をもち，意欲をもって学んだり，生活に生かそうとしたりする態度を養う。
2段階	ウ	自分のことに取り組もうとしたり，身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけようとしたり，意欲や自信をもって学んだり，生活に生かそうとしたりする態度を養う。
3段階	ウ	自分のことに取り組んだり，身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり，生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

教科	内容	項目	年計記載	事　　項	選択	評価 知・技	評価 思・判・表	評価 態度	評価 総合評価
生活	生活習慣基本	1-(ｱ)	生基1(ｱ)	簡単な身辺処理に気付き，教師と一緒に行おうとすること。	●		△	△	△
		2-(ｱ)	生基2(ｱ)	必要な身辺処理が分かり，身近な生活に役立てようとすること。					
		3-(ｱ)	生基3(ｱ)	必要な身辺処理や集団での基本的生活習慣が分かり，日常生活に役立てようとすること。					
		1-(ｲ)	生基1(ｲ)	簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。					
		2-(ｲ)	生基2(ｲ)	身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。					
		3-(ｲ)	生基3(ｲ)	日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，保健体育科（H 保健），高等部については，保健体育科（I 保健）を参照。							
	安全	1-(ｱ)	生安1(ｱ)	身の回りの安全に気付き，教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。	●		△	△	△
		2-(ｱ)	生安2(ｱ)	身近な生活の安全に関心をもち，教師の援助を求めながら，安全な生活に取り組もうとすること。					
		3-(ｱ)	生安3(ｱ)	日常生活の安全や防災に関心をもち，安全な生活をするよう心がけること。					
		1-(ｲ)	生安1(ｲ)	安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。					
		2-(ｲ)	生安2(ｲ)	安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。					
		3-(ｲ)	生安3(ｲ)	安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，保健体育科（H 保健），高等部については，保健体育科（I 保健）を参照。							
	日課・予定	1-(ｱ)	生日1(ｱ)	身の回りの簡単な日課に気付き，教師と一緒に日課に沿って行動しようとすること。					
		2-(ｱ)	生日2(ｱ)	身近な日課・予定が分かり，教師の援助を求めながら，日課に沿って行動しようとすること。					
		3-(ｱ)	生日3(ｱ)	日常生活の日課・予定が分かり，およその予定を考えながら，見通しをもって行動しようとすること。					
		1-(ｲ)	生日1(ｲ)	簡単な日課について，関心をもつこと。					
		2-(ｲ)	生日2(ｲ)	身近な日課・予定について知ること。					
		3-(ｲ)	生日3(ｲ)	日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，数学科（C 測定），高等部については，数学科（C 変化と関係）を参照。							
	遊び	1-(ｱ)	生遊1(ｱ)	身の回りの遊びに気付き，教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。					
		2-(ｱ)	生遊2(ｱ)	身近な遊びの中で，教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり，遊びを工夫しようとしたりすること。					
		3-(ｱ)	生遊3(ｱ)	日常生活の遊びで，友達と関わりをもち，きまりを守ったり，遊びを工夫し発展させたりして，仲良く遊ぼうとすること。	●		△	○	△
		1-(ｲ)	生遊1(ｲ)	身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。					
		2-(ｲ)	生遊2(ｲ)	簡単なきまりのある遊びについて知ること。					
		3-(ｲ)	生遊3(ｲ)	きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，職業・家庭科の家庭分野（A 家族・家庭生活），高等部については，家庭科（A 家族・家庭生活）を参照。							
	人との関わり	1-(ｱ)	生人1(ｱ)	教師や身の回りの人に気付き，教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとすること。					
		2-(ｱ)	生人2(ｱ)	身近な人を知り，教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとすること。	●		△	○	△
		3-(ｱ)	生人3(ｱ)	身近な人と自分との関わりが分かり，一人で簡単な応対などをしようとすること。					
		1-(ｲ)	生人1(ｲ)	身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。					
		2-(ｲ)	生人2(ｲ)	身近な人との接し方などについて知ること。					
		3-(ｲ)	生人3(ｲ)	身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，職業・家庭科の家庭分野（A 家族・家庭生活），高等部については，家庭科（A 家族・家庭生活）を参照。							
	役割	1-(ｱ)	生役1(ｱ)	身の回りの集団に気付き，教師と一緒に参加しようとすること。					
		2-(ｱ)	生役2(ｱ)	身近な集団活動に参加し，簡単な係活動をしようとすること。	●		△	○	△
		3-(ｱ)	生役3(ｱ)	様々な集団活動に進んで参加し，簡単な役割を果たそうとすること。					
		1-(ｲ)	生役1(ｲ)	集団の中での役割に関心をもつこと。					
		2-(ｲ)	生役2(ｲ)	簡単な係活動などの役割について知ること。					
		3-(ｲ)	生役3(ｲ)	集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。					
		※中学部については，職業・家庭科の職業分野（A 職業生活），家庭分野（A 家族・家庭生活），高等部については，職業科（A 職業生活），家庭科（A 家族・家庭生活）を参照。							
	手伝い・仕事	1-(ｱ)	生手1(ｱ)	身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとすること。	●		○	○	○
		2-(ｱ)	生手2(ｱ)	教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとすること。					
		3-(ｱ)	生手3(ｱ)	日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとすること。					
		1-(ｲ)	生手1(ｲ)	簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。					

新評価表による評価は学級担任の話し合いを通して行ったものの，選定した指導内容について，それぞれに評価基準を定めて評価しておらず，客観的な根拠を示すことができなかった。また，評価は指導者の主観によるところが大きいことに加え，３観点による学習状況の評価は，児童生徒の障害や実態によっては難しい場合も考えられる。さらに，「主体的に学習に取り組む態度」は，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」と併せて評価したが，このことが適当であるか検討が必要である。従って，今後は，新評価表における３観点の学習状況の評価方法について，新評価表の様式も含めて検討していくことが課題として残された。

２　新評価表を活用した新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて

研究授業では，生活単元学習の学習指導略案に，単元に関連する教科等の指導内容を新評価表から表記して実践を行った。その結果，研究協議の意見からも分かるように，新評価表を活用することで，各教科等を合わせた指導は，あくまで各教科等が基本となっていることの意識が，研究に携わった教員の中で高まったことにつながった。特別支援学校学習指導要領解説にもあるように，各教科等を合わせて指導を行う場合においても，各教科等の目標を達成していくことになり，育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要とされている。授業者は，新評価表で各教科等の指導内容を確認しながら学習指導略案を作成したことで，各教科等の育成を目指す資質・能力を確認することができ，結果として，各教科等の指導内容を踏まえた授業を組み立てることにつながったと考えられる。以上のことから，新評価表の活用が，新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの第一歩となったと考える。

しかし，授業における３観点による学習状況の評価はまだ十分とはいえず，３観点による学習状況の評価方法，単元に関する教科等の指導内容の評価を単元の総括的な評価に反映させる方法については，今後さらなる検討が必要である。また，特別支援学校学習指導要領解説では、各教科等を合わせた指導に要する授業時数をあらかじめ算定し，関連する教科等を教科等別に指導する場合の授業時数の合計と概ね一致するように計画する必要があるとされているが，本研究ではこのことについて取り組むことはできなかった。従って，今後は，授業における３観点による学習状況の評価方法，単元の総括的な評価方法，各教科等の時数の取り扱い方法について検討していくことが課題として残された。

Ⅷ　おわりに

事例対象児が在籍する特別支援学校では，新学習指導要領に対応した新評価表の活用が始まったばかりである。今後は，実践を積み重ねて，さらに活用しやすい新評価表に整えて行くとともに，新評価表における３観点による学習状況の評価，各教科等を合わせた指導における評価方法や各教科等の時数の取り扱い方法についても引き続き検討を進めていきたい。

Ⅸ　倫理的配慮

本研究の実施に当たり，対象児童の保護者に対し事前に説明を行い，事例発表や出版物への発表・掲載について文書による承諾を得るとともに，所属長からも同様の承諾を得た。

付記

本研究は，2019年度～2021年度科学研究費助成事業（基盤研究(C)JP19K02902，研究代表者 天海丈久，研究課題名「知的障害教育の各教科等の目標を踏まえた特別支援学校の指導計画作成システムの構築」）の助成を受けて行った研究成果の一部である。また本研究は，日本特殊教育学会第59回大会自主シンポジウム64（オンデマンド配信）において話題提供を行った。

文献

文部科学省（2017）幼稚園教育要領.
文部科学省（2017）特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領.
文部科学省（2017）小学校学習指導要領.
文部科学省（2017）中学校学習指導要領.

文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）．開隆堂出版株式会社.
文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科編（小学部・中学部）．開隆堂出版株式会社.
文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）．開隆堂出版株式会社.
文部科学省（2019）特別支援学校高等部学習指導要領．開文堂出版株式会社.
文部科学省（2020）特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（高等部）．株式会社ジアース教育新社.
文部科学省（2020）特別支援学校学習指導要領解説　知的障害者教科等編編（上）（高等部）．株式会社ジアース教育新社.
文部科学省（2020）特別支援学校学習指導要領解説　知的障害者教科等編編（下）（高等部）．株式会社ジアース教育新社.
文部科学省（2020）小学校学習指導要領コード【82V10】バージョン1.0．文部科学省，2020年10月16日，https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm（2020年12月29日閲覧）.
文部科学省（2020）中学校学習指導要領コード【83V10】バージョン1.0．文部科学省，2020年10月16日，https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm（2020年12月29日閲覧）.
文部科学省（2020）高等学校学習指導要領コード【84V10】バージョン1.0．文部科学省，2020年10月16日，https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm（2020年12月29日閲覧）.
文部科学省（2021）特別支援学校小学部･中学部学習指導要領コード【86V11】バージョン1.1．文部科学省，2021年３月18日，https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm（2021年３月18日閲覧）.
文部科学省（2021）特別支援学校高等部学習指導要領コード【8BV11】バージョン1.1．文部科学省，2021年３月18日，https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm（2021年３月18日閲覧）.
長崎自立活動研究会（2019）自立活動学習内容要素表.